

## 6月17日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●ウクライナ諜報機関のトップ、ブダノフが重体＝消息筋(2023年6月16日)

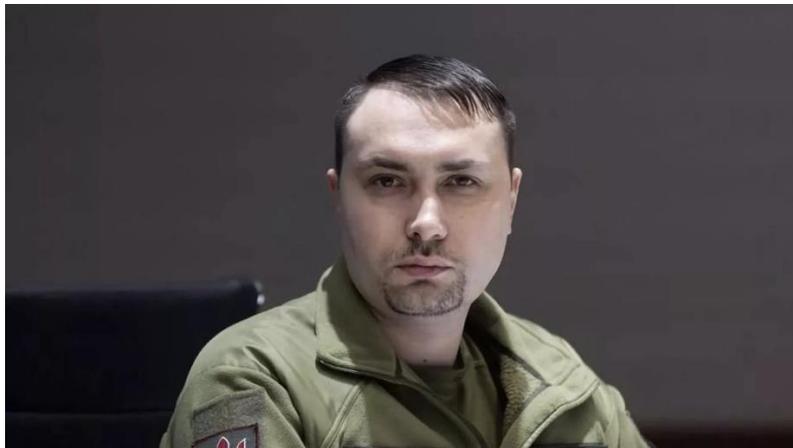
ウクライナ国防省情報総局のキリーロ・ブダノフ局長(37)は5月末、キエフにある情報総局の本部がロシア軍のミサイル攻撃を受けた際に重傷を負い、現在、ベルリンにあるドイツ連邦軍病院に入院している。スプートニクがロシア治安維持機関内の消息筋から入手した情報として報じた。この消息筋はこの情報をウクライナ情報総局内の消息筋から得ている。

消息筋によれば、ロシア軍のミサイルはブダノフの執務室の隣に命中した。ブダノフ自身は崩落した瓦礫の中からようやく救助され、ウクライナ軍衛生航空隊のヘリコプターでポーランドのジェシュフにある軍事基地へと移送された後、米空軍の第86航空医療避難隊の飛行機によってベルリンへと運ばれた。米軍の飛行機のフライト記録はデータサービスのFlightradarにも記載されており、消息筋の証言はこれで確証が得られる。

ロシアの治安維持機関の情報筋は、ウクライナ軍情報機関内の情報筋が、ブダノフが治療を受けている正確な場所をベルリンの独連邦軍病院と明確に示したと付け加えた。ウクライナの情報筋は、ブダノフは重体で、それを示す証拠もあると語っている。

5月29日、ロシア国防省は、ウクライナの軍事飛行場、司令部、レーダ施設への大規模なミサイル攻撃を発表した。特に、ウクライナのテレグラム・チャンネル(SNS)は、キエフ住民の発言を引用し、ミサイルがウクライナ国防省情報総局付近に着弾したと書いている。

しかも、ブダノフ自身は5月29日以来、公の場に姿を現していない。ブダノフ死亡説が流れると、ウクライナ当局はそれを否定したものの、ブダノフが負傷した事実や居場所、状態については沈黙している。



### ●ロシア 再利用型ドローン製造に成功(2023年6月16日)

サハリン無人機技術センターは新作FPVドローン、通称「リューチク・カミカゼ」を発表した。このドローンはもともと目的へ向かって片道だけ飛行する、単発使用向けにできていたが、それを開発者たちは再利用型にする方法を発見した。

センターはこれにリモートリセット起動の機能を追加し、バッテリー作動型の起爆装置を備えた燃料気化爆弾を遠隔操作で作動できるようにした。

「リューチク・カミカゼ」の開発目的は、特にドローンが深刻に不足する特別軍事作戦でのドローンの

使用効率と費用対効果を向上させることにある。

「リューチク・カミカゼ」はすでに成功裡に試運転を済ませており、最初の 10 台は、すでに特別軍事作戦ゾーンに送られている。ドローンの積載量は最大 2kg。飛行距離は貨物の重量によって変わる。



### ●ロシアの戦闘レーザーシステム(2023年6月15日)

長年 SF 世界の産物と考えられてきたレーザー兵器が近年、技術の大きな進歩により実用化されつつある。ロシアもこれまで軍事用レーザーの開発に多額の投資を行ってきており、軍には現在 3 つのレーザーシステムが導入されている。スプートニクは今回、その 3 つのレーザーシステム「ソコル・エシユロン」、「ペレスヴェト」、「ザディラ」を動画で紹介する。

「ソコル・エシユロン」と「ペレスヴェト」は、大気圏内の無人航空機(UAV)や 1500 キロまでの高度で宇宙機を無力化する。また、「ザディラ」は最大 5 キロ離れたドローンを破壊できるように設計されている。

レーザーは従来のミサイルと比較して発射 1 回当たりの費用が抑えられ、重力や空気抵抗等の影響を受けないなど様々な利点がある。しかし、大量の電力を確保する必要がある上、霧や雲などの気象条件によりレーザー効果が著しく低下する可能性があるという欠点もある。



### ●「ロシア産肥料・小麦、ウクライナ産穀物と同じほど世界に必要」 ラブロフ露外相、合意延長の条件示す(2023年6月15日)

ロシア、ウクライナの小麦などの輸出を定めたいわゆる「穀物合意」について、ロシア側の輸出が 7

月 17 日までに履行されなければ、合意延長はできない。セルゲイ・ラブロフ露外相がこのような考えを示した。

トルコ、国連の仲介で昨年 7 月に成立した穀物合意は、主に 2 つの協定からなっている。1 つはウクライナの黒海沿岸の港から穀物を輸出するもの。もう 1 つはロシア産食料、肥料への輸出制限の解除に向けた国連との合意となっている。

だが、西側諸国による各種制限が障害となっており、ロシアからの輸出については現在まで十分に履行されていない。制限には国際決済システム「SWIFT」からのロシア農業銀行の排除、ロシアへの農業用機械の供給やメンテナンスの停止などが含まれている。

ラブロフ外相は 15 日に出席した黒海経済協力機構の外相会合で、次のように述べている。「残念ながら、穀物合意はウクライナ側の輸出のみ実現されている。ロシアのアンモニア輸出は動いていない。しかも、アンモニアパイプラインが爆破されたとき」

アンモニアは化学肥料の原料で、ロシアはこれまでトリヤッティ(露)ーオデッサ(ウクライナ)間のアンモニアパイプラインの運転再開を要求していた。だが、今月 5 日、ウクライナの作業員が同国内を通過するパイプラインを爆破するテロが起これ、再開は見通せていない。

さらにラブロフ外相は肥料以外でも、ロシア産食料への制裁解除プロセスに進展がみられないと指摘。「7 月 17 日までにロシアからの輸出について合意が履行されなければ、今後の延長の話はできない」と注文をつけた。

「世界はロシアの肥料と小麦を、人道支援というスローガンの陰に偽善的に隠れながら、米国企業が生産し、欧州がダンピング(不当廉売)価格で買い漁っているウクライナ産穀物と少しも変わらないほど必要としている」

穀物合意をめぐるのはこれまでに、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領が、ロシアは穀物輸出の自由化が実現しないという点で「再びだまされた」と述べ、制限を続ける西側諸国に対し不快感を示した。



## ●中国は世界基軸通貨のドルに対する「最大の脅威」 米議会で指摘(2023 年 6 月 15 日)

マーシャル・ビリングスリー元米国軍備管理担当大統領特使は米議会で演説した中で、ロシア、中国、ブラジルが国際基軸通貨としてのドルの役割を「損ね」、国際安全保障構造を「破壊」しようとしていると発言した。ビリングスリー氏は、中でもドルの優位性を脅かす最大の脅威は中国だとの考えを示した。ビリングスリー氏の演説をロシアのマスコミが報じた。

ビルングズリー氏は、ロシア、中国、ブラジルは世界の基軸通貨としてのドルの地位にとって代わろうとしており、最終的には自由世界のリーダーとしての米国の地位の転覆を狙っているとして、「これらの国は、短期的にはこれは米国が自国の国家安全保障の手段として金融を利用する能力を弱体化させる手段だと考えている」と述べている。ビルングズリー氏は、この 3 カ国の中で最大の脅威は中国であり、ロシアに対して規制が行われている状況から教訓を得つつ、自国の経済を守るために積極的な対策を講じているとの見方を示した。例えば、中国は金の保有量を増やしており、昨年は米国の国債への投資を縮小させている。

ビルングズリー氏は、中国が欧米の投資家に対して負う債務(中国に保有する欧米の資産)は最大 5 兆 8000 億ドル(807 兆 6000 億円)で、欧米の制裁対象となり得る中国の国際資産は 3 兆 4000 億ドル(473 兆 4000 億円)に満たないと指摘している。

ビルングズリー氏は「言い方を変えれば、中国は潜在的には米国のような大打撃を与えることができる」と述べ、米国は中国のような制裁に対して強い金融システムを持つ敵に初めて直面したのだと演説を結んだ。

スプートニクはこれより前、ロシアと中国は、BRICS の枠組みの中でドルの代替を構築し、ドルに壊滅的な打撃を与えたとする米国人記者の見解を報じた。



## ●【特集】「ロシア人とは何か一般の人に伝えたい、テレビなしでね」 東京の露料理店オーナー・前田奉司さん(2023 年 6 月 16 日)

東京で「日本・ウラジオストク協会」会員らによる定例会合が開かれた。今回のテーマはウラジオストク出身で、アカデミー主演男優賞の受賞経験のある米俳優ユル・ブリンナーだった。会場を訪れたスプートニク通信の特派員は、主催者や参加者と対話し、テーマの選択や協会の活動について話を聞いた。「日本・ウラジオストク協会」は 2007 年に設立され、現在では日本全国の 80 人以上が参加している。会合は毎月 1 回開かれているが、全員が同じ場所に集まるのは簡単ではない。だが、あるレストランが助け舟を出してくれた。レストラン内にプロジェクターとスクリーンを設置したことで、オンラインではあるが遠隔地の希望者も参加できるようになっている。

スプートニク通信は「日本・ウラジオストク協会」事務局長の浅井利春さんに、協会ができた経緯について質問した。浅井さんは過去にはビジネスマンとして活躍し、ウラジオストク日本センターの所長を務めた経験もある。

浅井さん:私がウラジオストクで日本センターの所長だったとき、当時一緒にウラジオストクにいた

総領事がウラジオストクの応援団みたいなものを作らないかと提案しました。それで日本にいた私はまたウラジオストクに行き、でき上がったんです。

スプートニク: もともとロシア語の勉強をされていたのですね。

浅井さん: そうです。私は神戸の外語大学でロシア語を勉強しました。だけど、ラグビーもやっていたから、あまり真面目ではありませんでした。

今回の集いのテーマはユル・布林ナーの人生やキャリアという、一風変わったテーマだった。この米国の有名俳優は 1920 年にウラジオストクで生まれた。彼の生家はウラジオストクの発展に貢献した一族だった。布林ナーは子供時代にヨーロッパに移住し、その後米国に渡り俳優としての榮譽を手にした。

スプートニク特派員は、会場で 3 時間にわたり布林ナーについての講演を行った翻訳者兼ロシア語教師の榎本真奈美さんに話を聞いた。

スプートニク: ユル・布林ナーについて色々なお話を伺いましたが、なぜこのテーマを選んだのでしょうか？

榎本さん: やはり布林ナーの家族がウラジオストクの街を作った人々の一つということです。そのうちにロシア革命も起こるじゃないですか。日本にとってもウラジオストクは、例えばシベリア出兵で日本軍が駐留したり、非常に関係が深いですよね。だから、すごく興味を持ったんです。あと、布林ナーのお爺さんがなんと日本に 10 年も住んでいたというのが、すごく驚きました。それでもっと調べてみたいなと思いました。

スプートニク: なぜロシア語やロシアの文化、歴史に興味を持ったのですか？

榎本さん: 私は元々神戸市外国語大学でロシア語を勉強していました。私の先生はソ連時代に初めてロシアに留学した日本人女性で、渡辺侑子さんという方でした。先生はアンナ・アフマートヴァやマリーナ・ツヴェターエフについての本を書いていました。私はそれを読んですごく面白いと思って、ツヴェターエフを勉強して卒業論文を書きたいと思ったのです。それでロシアのサンクトペテルブルクで 1 年間留学しました。そこから亡命したロシア人も含めて、ロシア革命の前後に活躍した作家や文化人に興味が出たんです。今はソビエト時代の作家もとても興味があるんですけども、最初のきっかけはツヴェターエフの作品などを、自分でロシア語で読みたいなと思ったことです。

協会が集いの会場に選んだのは、府中駅(東京都・府中市)の近くにある居心地のよいロシア料理店「パーチカ」だ。ほぼ世界全ての国の料理店が集まる都心部とは異なり、郊外にこうした外国料理店があるのは珍しいと指摘しておきたい。

スプートニク特派員は「パーチカ」のオーナーで、株式会社「Business Coordination Japan」の代表取締役を務める前田奉司さんにも話を聞いた。

スプートニク: レストランをオープンしたのはいつですか？

前田さん: 4 年前です。

スプートニク: なぜ東京でロシア料理を開いたのですか？

前田さん: 私はロシアで 24 年間働いていました。モスクワで 12 年、極東のウラジオストクとハバロフスクで合わせて 12 年です。色々なロシア人に出会いました。今、テレビや新聞はロシアのイメージを歪曲しています。ロシアの政権を批判することしかしない。ですが、50 年以上一緒に働いてきた、私が知っている本当のロシアの人々は違うのです。だから、私はロシア人がどういったものであるか、一般の日本人に説明したいのです。私のレストランで彼らと落ち着いて話してみたい、テレビなしでね。



## ●ロシア、「断交寸前」とカナダに警告＝貨物機押収に反発(時事通信、2023年6月16日)

【ニューヨーク時事】ロシア外務省は15日、カナダ政府がロシア籍の貨物機を押収したとして、モスクワ駐在のカナダ外交官を呼び出し、抗議したと明らかにした。その上で、両国関係は「断交寸前」とあると警告した。

カナダ政府は10日、トロントの空港に駐機したままとなっていたロシアのボルガ・ドニエプル航空が所有するアントノフ124型1機の差し押さえを発表。同社はロシアのウクライナ侵攻後、制裁対象となっていた。



## ●防空ミサイルを追加供与＝欧米4カ国、ウクライナに(時事通信、2023年6月16日)

【ワシントン時事】米、英、オランダ、デンマークの各国防当局は15日、ロシアの侵攻を受けるウクライナに共同で防空ミサイルを追加供与すると発表した。ウクライナの反転攻勢が始まる中、ロシアのミサイル攻撃などから重要インフラを守るのが狙い。

## ●IAEA事務局長、ザポリージャ原発と近隣の貯水池視察「冷却水は当面確保できる」(読売新聞、2023年6月16日)

【ベルリン＝中西賢司】国際原子力機関(IAEA)のラファエル・グロッシ事務局長は15日、ロシア軍が占拠するウクライナ南部ザポリージャ原子力発電所と近隣の冷却池を視察した。IAEAの発表によると、グロッシ氏は、原発の安全維持に欠かせない原子炉の冷却水は当面確保できるとの認識を示した上で、「水位を保つことが不可欠だ」と述べた。

原発が取水していたヘルソン州のカホフカ水力発電所ダムの貯水池は決壊で水位低下が進んでおり、IAEAは代替水源の確認を急ぐとしていた。

ロイター通信によると、視察を終えたグロッシ氏の車列がロシアの占領地域を出る際、銃撃音があったため、走行を一時中断した。危険はなく、車列はウクライナ側が管理する地域に戻った。



## ●米国防長官 ウクライナへの長期的支援を強調「戦いは短距離走ではない」(テレ朝、2023年6月16日)

アメリカのオースティン国防長官はロシアへの反転攻勢に臨むウクライナに対して、長期にわたって支援を続けることが必要だと強調しました。

オースティン国防長官:「ウクライナでの戦いはマラソンだ。短距離走ではない。我々は長期にわたってウクライナを支えていくつもりだ」

オースティン長官は15日、ウクライナを軍事支援する関係国の会合で、ウクライナへの武器・弾薬の提供や防空システムの強化に向け、軍事支援を加速するよう呼び掛けました。

また、ウクライナ軍は十分な態勢を整えているとしながらも、今後の戦いは「短距離走ではない」と指摘し、支援国全体で長期にわたって支援を続ける必要性を強調しました。

また、アメリカ軍の制服組トップ、ミリー統合参謀本部議長は「非常に困難で暴力的な戦いであり、相当な時間と巨額の費用がかかるだろう」と述べ、戦局の見通しを予測するのは時期尚早との認識を示しました。



## ●習近平氏がパレスチナのアッバス議長と会談 中東への関与強める中国、関係強化で合意(東京新聞、2023年6月15日)

【北京＝新貝憲弘】中国の習近平(しゅうきんぺい)国家主席は14日、訪中したパレスチナ自治政府のアッバス議長と北京で会談した。新華社電によると、両国は自由貿易協定(FTA)の協議を加速させるなど関係強化で合意。習氏は「パレスチナが国連の正式加盟国となることを支持する」と述べ、イスラエルとの「2国家共存案」を軸とした中国の主張をあらためて示した。

中国はいち早くパレスチナを国家として承認する一方、イスラエルとも経済、技術面を中心に関係を深めている。中東への関与も強めており、3月にはイランとサウジアラビアの外交関係正常化を仲介した。パレスチナの和平交渉でも前向きな姿勢を示したことで、中東での存在感が高まりそうだ。

15日付の中国紙「環球時報」は、今回の会談を米メディアが「中国が米国と中東地区でも影響力を競う一端と見なしている」などと紹介。ただ、パレスチナ寄りの中国がどこまで本気で関与するかは未知数だ。



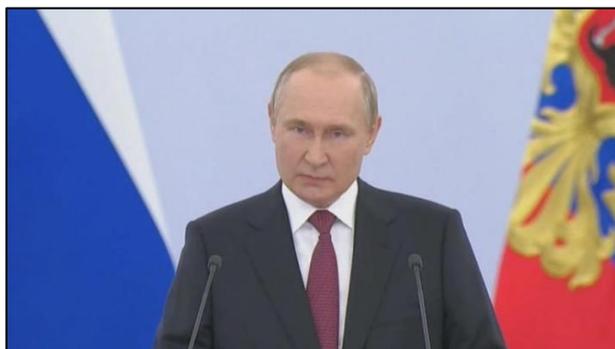
## ●ロシア 併合4州で9月に「地方選」実施へ(2023年6月16日)

ロシアは一方的に併合したウクライナの4つの州で、9月に「地方選挙」を実施すると発表しました。選挙により支配の既成事実化をさらに強める狙いとみられます。

ロシア中央選挙管理委員会は15日、一方的に併合したウクライナ東部と南部の4つの州で、ロシアの統一地方選挙にあわせて9月10日に「地方選挙」を実施することを決定しました。それぞれの州の「議会選挙」など、あわせて80の選挙が実施されるとしています。

4つの州には去年10月に「戒厳令」が出されていますが、プーチン大統領が先月、選挙実施に向け関連法に署名し、戒厳令の下でも選挙が可能になっていました。

ロシアは「統一地方選の一環」として、4つの州でも選挙を実施することで支配の既成事実化をさらに強める狙いがあるとみられます。



## ●ドイツもアメリカの植民地(2023年 6 月 17 日)

1949 年 5 月 21 日、ワシントンから押し付けられた秘密条約によってドイツは独立を失った  
首相はドイツにできること、できないことが定められた文書に、米務省の特別代表と署名しなければならぬ

独首相たちの行動は定期的に非倫理的になる、最近だと対ロシア政策がその例だ。

<https://twitter.com/i/status/1669219619499036672>



## ●ロシア国防省(6月15日);SVO 地帯におけるウクライナ軍640人超の大規模損失を報告(2023年6月15日)

ロシア連邦国防省は 6 月 15 日の会見で、特別軍事作戦(SVO)の進捗状況に関する作戦情報を報告した。

同省の公式代表であるイーゴリ・コナシェンコフ中将が発表したデータによると、ウクライナ軍は引き続き NVO 地帯で大きな損失を被っている。

そこで昨夜、ロシア航空宇宙軍は攻撃用無人航空機の生産現場に対し、高精度空中発射長距離兵器による攻撃を開始した。指定されたオブジェクトがすべて命中され、ストライクの目標は達成された。クラスノアルメイスク(DPR)の集落近くで、ロシア航空宇宙軍の戦闘機がウクライナ空軍の Su-27 航空機を撃墜した。

ドネツク方面では、RF 軍の「南部」グループの積極的な行動により、ラズドロフカ、ペルボマイスコエ、クラスノゴロフカ、マリнка(DPR)の入植地地域でのウクライナ軍の 5 回の攻撃を撃退した。アルチョモヴォ、ズワノフカ、ヴィエムカ、アヴデーエフカ(DPR)の入植地地域で、ロシアのミサイル部隊と航空部隊がウクライナ軍の第 24、第 54、第 110 機械化旅団の部隊を撃破した。

戦闘中に、最大 340 人の戦闘員、車両 4 台、装甲戦闘車両 2 台、D-30 榴弾砲 1 台が破壊された。ウクライナ軍の第 24 機械化旅団、第 79 空襲旅団、第 47 砲兵旅団の弾薬庫がノヴォミハイロフカ、ノヴゴロツコエ、スラブノエ(DPR)の入植地地域で破壊された。

ヴレメフスキー棚の地域の南ドネツク方向では、防衛部隊の決定的な行動、空爆、砲撃、およびポストーク部隊の重火炎放射器システムが、ウクライナ軍による攻撃を撃退した。ノボポル(DPR)とレバドネ(ザポリージャ地方)の入植地エリア。最大 25 人の武装勢力と 3 台の戦車が破壊された。ノヴォダロフカ(ザポリージャ地方)、ネスクチノエ、ヴェリカヤ・ノヴォセルカ(DPR)の集落地域では、第 128 領土防衛旅団の人的資源と装備の蓄積、ウクライナ軍の第 31 機械化旅団、第 1 戦車旅団が敗北した。

ザポリージャ方面では、リュビツケ(ザポリージャ地方)の集落近くでミサイル攻撃が行われ、ウクライナ軍第47機械化旅団の部隊が敗北した。ウクライナ国軍第65機械化旅団の弾薬庫がオメルニク(ザポリージャ地方)の集落近くで破壊された。ザゴルネ入植地(ザポリージャ地域)では、ウクライナ DRG の活動が停止された。これらの方向におけるウクライナ軍の損失総額は、ウクライナ軍人 155 名、戦車 3 両、装甲戦闘車両 2 両、榴弾砲 2 両に達した。(Msta-B、D-30)とフランス製の自走砲施設 Cezar。

クラスノ・リマンスキー方向では、空爆、部隊「センター」グループの砲撃により、ネフスコエ、チェルボナヤ・ディブロワ(LPR)、セレブリヤンスキー林業の集落地域でウクライナ軍の部隊を破った。テルヌイ(DPR)とクズミノ(LPR)の入植地の地域では、2 つのウクライナ DRG の活動が抑制された。50 人以上の武装勢力、2 台の装甲戦闘車両、2 台の自走砲台(アカシア、グヴォズディカ)、および D-30 榴弾砲が破壊された。

クピャンスク方向では、RF 軍の「西側」グループの作戦戦術および軍用航空、砲兵が、マシュトフカ、モルチャノヴォ、キスロフカ、ベレストヴォエの集落地域でウクライナ軍の人的資源と装備を攻撃した(ハリコフ地方)。シンコフカ(ハリコフ地方)とノヴォセロフスコエ(LPR)の入植地地域では、ウクライナの DRG 2 台が破壊された。この方向でのウクライナ軍の損失は、戦闘員 30 名、車両 2 台、ムスタ-B 榴弾砲に達した。

ヘルソン方面では、火災被害の結果、ロシア軍は 35 人以上の武装勢力、11 台の車両、2 台の榴弾砲(ムスタ-B と D-30)を破壊した。

RF 軍の作戦戦術および軍用航空、ミサイル部隊および砲兵部隊は、132 地区の射撃陣地、人員および軍事装備において、ウクライナ国軍の 105 砲兵部隊を撃破した。ウクライナ国軍第 128 山岳突撃旅団の指揮所がカミシェヴァフ(DPR)の居住地近くで攻撃された。

クラマトルスク市(DPR)の地域のロシアの防空システムは、ウクライナの Su-27 戦闘機を撃墜し、5 発の HIMARS およびウラガン MLRS 砲弾を迎撃し、さらにシピロフカの入植地の地域で 25 機のウクライナの無人航空機を破壊した(LPR)、Yelenovka、Disputed、Green Guy(DPR)、Removka、Novoe(ザポリージャ地域)および Proletarka(ヘルソン地域)。

JMD の開始以来、ロシア軍は合計で 444 機の航空機、238 機のヘリコプター、4,630 機の無人航空機、426 台の防空システム、9,994 台の戦車およびその他の装甲戦闘車両、1,124 台の MLRS 戦闘車両、5,121 台の野砲および迫撃砲を破壊した。ウクライナ軍の特殊軍用車両 10,964 台。

専門家が以前書いたように、ロシア軍はウクライナ軍の作戦予備軍の拠点にミサイル攻撃を開始した。高精度の空中長距離兵器による攻撃の目的は達成された。



## ●ゼレンスキーの裏切り(2023年6月16日)

<https://twitter.com/i/status/1669573158108815360>

「私たちの第一の目的は、ドンバスで停戦を達成することです！」これは 2019 年に大統領に就任したゼレンスキー氏の言葉だ。

しかし、彼は約束を無視して民間人への爆撃を続けた！ ☹️☹️☹️



### ●ウクライナ軍兵士の降伏(2023年6月17日)

ウクライナ軍兵士は命を優先して正しい選択をし、ウクライナ国軍第 28 旅団第 5 中隊第 2 大隊の最大 20 名のウクライナ軍人を降伏させた。

<https://twitter.com/i/status/1669798169344114688>



### ●ダム決壊避難中にウクライナ軍から攻撃(2023年6月16日)

ロシア当局がノヴァ・カホフカ・ダム決壊による死者 17 名を確認する中、被災地の支援者であるタチアナ・サヴィツカヤは、ダム破壊後に AFU が砲撃を開始したため、地下室に隠れている間に亡くなった人もいと述べた。

<https://twitter.com/i/status/1669607776967086082>

